



VOS

No. 204
2018. March



祝 卒業・修了

Page 02. 学長メッセージ

Page 04. 副学長・市長メッセージ

Page 06. 卒業・修了を祝して
卒業・修了生から／
専攻長・基盤共通教育部長から

Page 15. 贈る言葉
同窓会／むつみ会から

Page 16. 全国高専めぐり

Page 17. 退職にあたって

Page 20. 編集後記

卒業・修了を祝して



Message

学 長 東 信彦
Nobuhiko Azuma

人生の計は今にあり

卒業・修了おめでとうございます。学士、修士、博士それぞれの学位を得た皆さんの長年の研鑽とその成果に敬意を表し心からお祝いを申し上げます。併せて、長年にわたって皆さんを支え見守ってこられたご家族の方々に心よりお礼とお祝いを申し上げます。

留学生の皆さんは、故国を遠く離れ、言語・文化の異なるところでの生活、学習には大きな苦勞があったことと思います。幾多の困難を乗り越えて今日の日を迎えられましたことに敬意を表します。国内はもとより、広く海外の地から集まった文化の異なる多くの人たちと出会い、ともに語り、時にはぶつかり合って過ごしたこの数年は、皆さんの精神に大きな成長を促した時期であり、そこで得た友人は皆さんのこれからの人生でかけがえのない財産となります。そしてこの長岡の地は、青春期の故郷として皆さんの心に長くとどまることと思います。

今は人生100年時代と言われます。皆さんの世代の平均寿命は100歳ということです。政府は「人生100年時

代構想会議」を開き、生涯教育や中高年の再就職支援など、誰もが幾つになっても、新たな活躍の機会に挑戦できるような環境整備を検討しています。これまでは60～65歳で定年を迎え、後の20年ほどを年金で暮らすのが一般的な人生でしたが、平均寿命が延び、少子高齢化のため、年金で暮らすことは難しく、生きている限り働かないと暮らしていけなくなるでしょう。皆さんの頃には80歳ぐらいまでが生産年齢となるかもしれません。大学を卒業・修了してから60年もの間を一つの職で全うできる人はほとんどいないでしょう。さらに現代はAIやロボットの出現で産業構造が急速に変革している時代であり、今ある職業の半分は10年後には無くなっていると言われています。皆さんはその荒波の中で新しい仕事と職をどんどん生み出していく役割を演じる方だと思います。本学で学んだ皆さんには与えられた職に受動的に就くのではなく、能動的に新しい職を生み出していった欲しいと思います。「未踏分野、未踏領域でグローバルに活躍

するタフなエンジニア」になって下さい。そのためには、生涯学び続け、新しいことに挑戦する気力と高齢まで働き続けられる健康を維持することが大切です。また、人とのネットワークが益々重要になるでしょう。

皆さんは今、やっと学びの期間が終わったと感じているかもしれませんが、学びの方法を学び終わったと言った方がいいでしょう。本当の学びはこれからです。これから60年から80年にわたる長い夢のある人生が待っています。“人生の計は今にあり”です。

そして、これからは皆さんの大きな財産である同窓生ネットワークを十分活用してください。卒業・修了して社会で活躍される皆さんは、これで長岡技術科学大学と別れるのではありません。明日からはOB、OGとして本学を応援し、また積極的に活用してください。長岡技術科学大学は、皆さんをこれからもずっと応援し続けます。

最後に、皆さんが、夢と志と勇気をもって、グローバルに活躍されることを祈念し、お祝いの言葉といたします。

卒業・修了を祝して



理事・副学長
(教育研究企画運営担当) **鎌土 重晴**
Shigeharu Kamado



卒業・修了を祝して

大学院修了生および学部卒業生の諸君、修了および卒業、おめでとうございます。

皆さんは本学での所定の審査に合格し、本日博士、修士、学士の学位を取得できました。これは、諸君の不断の努力や研鑽の賜物であり、敬意を表します。同時にこれまで長きに亘って諸君を指導・支援をして下さった指導教員、御家族、先輩そして同僚への感謝の気持ちも忘れないでください。

今後、諸君は社会の荒波の中で生き抜かなければなりません。山あり、谷ありの人生を過ごすことになるかと思えます。まずはスタートダッシュをできるように、入社までの時間に、今一度、心を引き締めて頂きたい。

昨年12月に、環境保護などを訴える非政府組織(NGO)のグループ「気候行動ネットワーク」が、ドイツで開催された第23回国連気候変動枠組み条約締約国会議(COP23)で、地球温暖化対策に消極的な国に与える「化石賞」として1～3位を挙げまし

た。1位は2020年までの温暖化ガスの排出削減に消極的だとして先進国の国々を、さらに日本は単独で2位にも挙げられました。日本は先進国にも含まれるため、不名誉な「化石賞」のダブル受賞となりました。日本が単独でも選ばれた理由は、2017～2018年に米国と協力して石炭火力発電所と原発の建設を世界に広げること合意したためとされています。石炭火力発電は温室効果ガスの排出量が多く、日本は東南アジアなどでの建設に多額の融資をしている上、国内でも多くの建設計画を抱えていることから、批判の対象とされています。また、発電量が一定の原発は電力需要に合わせて発電量を調整するのに石炭火力発電を使うため、排出削減に役立たないと言われています。その解決策としての国内の研究開発動向に目を向ければ、内閣府や資源エネルギー庁では地方再生や再生可能エネルギーの活用に向けたプロジェクトが大きな柱になりつつある。さらに、火力発電の

燃焼効率改善によるCO₂排出量削減に向けた技術開発も官民一体となって推進しています。

本学教員の研究内容にも新エネルギー活用や省エネルギー等の持続社会構築に向けた基盤的研究も多くなされており、社会に情報発信できる成果も生まれつつあります。諸君はそのような環境の中で教育を受け、研究に邁進されてきました。本学は一昨年、日経BPから発行されました「企業人事から見た大学のイメージランキング」で全国の確たる著名な国公立大学の中で、1位という栄えある名誉を頂きました。昨年3月にはTimes Higher Educationの世界大学ランキング日本版2017にて総合17位と、本学の教育研究環境も優れていることが実証されました。本学を巣立つあなた達は就職される企業でも活躍を期待されています。自信を持って社会に羽ばたいてください。大願成就されることを心から祈っています。



長岡市長 **磯田 達伸**
Tatsunobu Isoda



ともに新しい長岡を作ることを夢見て

長岡技術科学大学を卒業・修了される皆さんに、心からお祝い申し上げます。

皆さんは全国各地から、さらには世界各国から来られていると思いますが、首都圏や太平洋側に比べると天候の違いが明らかで、別世界にきたような錯覚を覚えた人もおられたかもしれません。

長岡は、観光であれば日本有数の米どころ・酒どころ、100万人を超える観客が訪れる長岡大花火大会を目的に足を向けてもらえます。一方、ビジネスや生活をする場としてどうかというと、温暖で天候に恵まれた太平洋側とは明らかに違って、厳しい気候で過ごしにくいというイメージを持たれてしまっており、大変残念に思っていました。

しかし、新幹線で東京都心から1時間30分という時間的距離の近さに加え、高速回線を利用したテレワークの進化によって、昨今では大都市との感覚的な距離はどんどん近づいてい

ます。むしろ常に新鮮で豊かな食材を安く手に入れることができ、車で少し走るだけでキャンプやスキーができる環境は、大都市では得がたい魅力であり、長岡に住み働きながら東京にアクセスするライフスタイルが徐々に現実のものとなってきています。

そして、長岡を事業の拠点とする上で大きな魅力が、皆さんをはじめとした優秀な学生の多さです。従前から長岡技術科学大学の教育・研究と、その成果としての優秀な人材の輩出は、大きな魅力であることに変わりはありませんが、世界的に優秀な人材が求められている現在、その魅力は、相対的に高まっていることを実感しています。

昨今、米国シリコンバレーなどで勃興するスタートアップ企業は、エンジニアとデザイナーと経営者で構成するユニットが最小単位とされています。これが偶然にも長岡の3大学1高専の専門領域の組み合わせと符合していることに、運命的なものを感じ

ています。昨年11月には3大学1高専が結束して、産業振興や人材育成についての提案「NaDeC^{ナデック}構想」を表明していただきました。それぞれ郊外に立地する大学・高専から、学生や教員の皆さんが中心市街地に集まって交流し化学反応が起こるイメージを、これから大きく育てて形にしていきたいと思えます。

5,000人もの学生を擁する長岡市は、これからも変化する時代の波を巧みに乗り越える人材を育てていきたいと考えています。そして、長岡の魅力を中心に刻んで巣立つ皆さんが、遠くにあったとしても様々な機会で長岡を選び、長岡の魅力を引き出し育てていただければ、これほどうれしいことはありません。ともに新しい長岡を作ることができる日を楽しみに、皆さんのご活躍をお祈りしています。

卒業・修了を祝して

大満足の大学生活

修士課程 機械創造工学専攻 2年
東京都立産業技術高等専門学校 出身

高橋 克征

Katsumasa Takahashi

私が長岡技術科学大学に編入してから4年が過ぎました。今振り返るとあっという間だったと感じるだけでなく、数え切れないほどの思い出、たくさんの人と出会うことができました。私の大学生活は研究とサークル活動の2つが印象に残っています。研究では4年間同じテーマで研究をさせていただき、たくさんの知見や技術を習得することができたと思っています。共同研究先では大型の試験装置を使用して実験を行い、議論を重ねて課題の解決を日々行っていました。そして実験で得られた結果を元に学会発表に挑戦をさせていただきました。緊張の中、満足のいく発表ができた時の達成感は格別であり、質疑応答で議論できたときに成長できていることを実感することができました。サークル活動はキ

ンボールスポーツサークルに所属し、大会などの遠征だけでなく合同練習の企画をさせてもらいました。長岡に住む子供達を始めとした多くの方と切磋琢磨し、大会での勝利を目指して活動してきました。たくさんの思い出を作ることができ大満足です。在学生の方には未練のない大学生活を送って頂きたいだけでなく、10年後でも語り合えるような思い出を作ってほしいです。



指導教員の教授昇進祝い



学生生活の集大成

修士課程 電気電子情報工学専攻 2年
東京都立産業技術高等専門学校 出身

藤田 一希

Kazuki Fujita

本学を修了するにあたり、日々ご指導いただいた先生方、この学生生活を共に乗り越えてくれた友達、ずっと私を支えてくれた家族、学生生活に関わってくれた全ての方々に心より感謝致します。皆様のおかげで自分の転機となる大学大学院生活を送ることが出来ました。

学部4年生の実務訓練では、実際に働く企業の方を見て、色々な視点から物事を考えることを覚えました。そして、自分に足りないものを見付け、将来の可能性や社会でどのように貢献したいかを考えるきっかけとなりました。これから実務訓練に行く在学生の皆さんは、実務訓練中に物事を様々な視点から考え、1つでも多く自分の成長に繋がることを見つけてほしいと思います。私は実務訓練中に多くの失敗をしまい落ち込むこともありましたが、それらの失敗をその後の大

学院生活と就職活動に生かせたと実感しております。就職活動においては多くの方々にお世話になり、これまで以上に自分と向き合いながら様々な企業に粘り強く挑戦しました。その結果、学生生活の集大成となり、自分のやりたい進路に進みます。

私もこの春からいよいよ社会人です。初めは先輩のお世話になりますが、いずれは社会を引っ張る一員として活躍していきたい所存です。



GI ネットを用いた遠隔ゼミの様子



贈る言葉

自分のため、後世のため、そして世界のために

機械創造工学専攻長 教授

井原 郁夫

Ikuo Ihara

卒業・修了、おめでとうございます。

皆さんはいわゆる「ゆとり世代」のど真ん中の年齢層であり、小・中・高(高専)を通じてゆとり教育を受けてきた人達です。その教育環境がどのようなものであったかはさておき、皆さんが本学で勉学・研究に励み、一定の成果を挙げ、就職内定を勝ち取り、無事に卒業・修了の日を迎えられたことは、教職員一同本当に嬉しく、同時に安堵の胸を撫で下ろしています。誤解を恐れずに言えば、昨今の日本の大学の教育・研究環境は必ずしも十分なゆとりがあるとは言えない状況で、多くの教職員は日々雑多な用務に追われています。そのような中、教職員によるサポートもさることながら、皆さんは自助努力によって立派に成長を遂げられました。世の中ではゆとり教育に対してややネガティブなイメージもあるようですが、皆さんの今日の成長を見る限り、ゆとり世代への心配は杞憂であったと思われます。何れにせよ、ゆとり世代の代表格である皆さんの真価が問われるのはこれからです。実社会で存分に実力を発揮してください。

技大は地方にある単科大学です。しかし、最近のランキングでは大都市圏の大規模大学に勝るとも劣らない地位を獲得しています。このような高い評価は、これまでの教職員の努力と卒業・修了生の実社会での活躍によるものです。裏を返せば、10年後、20年後の本学のプレゼンスは皆さんの社会での活躍ぶりに大きく影響されることになります。その意味で皆さんの責任は重大です。しかし、皆さんにはまず、大学のためではなく、自身の自己実現のために、一層の努力と研鑽に励んで頂きたいと思います。その結果、皆さんの仕事の成果が社会に還元され、願わくはその成果が世界の人々の幸福な暮らしに波及するとき、長岡技大のプレゼンスが一層高まることになります。そのようなタイムラグを経て皆さんと大学が繋がることが、本学の健全な持続的発展をもたらし、ひいては将来の皆さんの幸福をもたらすことになります。

卒業生・修了生の皆さんが、ご自身の能力と適性を最大限発揮され、社会で活躍されることを期待しております。

贈る言葉

新たな飛躍に向けて

電気電子情報工学専攻長 教授

和田 安弘

Yasuhiro Wada

卒業・修了する皆さんに心からお祝い申し上げます。

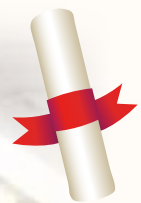
4月から社会人としての新しい生活に大きな夢や希望を持っておられることと思います。その夢や希望に、本学で過ごし、経験し、学ばれたことが大きな糧になることを期待しております。

今、世の中はIoT、ビッグデータ、AI等々と変化を促す大きな波が来ています。仕事の質の変化を促しているのかも知れません。また、グローバル社会とも言われています。技術的なシフトや社会環境のシフトが急速に押し寄せています。このような大きな波、小さな波は、これからの社会生活の中では、何回も向かって来るはずで、この波に流されずに生きていかなければなりません。この情報過多と言われる時代で、自分自身で物事の本質を

冷静に判断して生きていかなければならないでしょう。これに対応していくためには、専門性を高めるだけではなく幅広い人間性を身につけることも必要ではないでしょうか。そのためには読書や多くの人とのコミュニケーションも一つの手段であると思います。高専、大学、大学院で得られた知識は、長い人生を生き抜くための基本的なことです。不断的努力で人間性を高めて行くことは、これからの長い人生を力強く生き抜いて行くために重要であると思います。皆さんは、長岡技術科学大学での日常生活の中で、また、実践的、創造的な勉学・研究活動の中で、土台を作られ、その上に大きな成果を築き上げる力を身につけたはずで、これからの人生を力強く、自分を信じて拓いて、活躍されることを心から願っています。



卒業・修了を祝して



6年間で得た経験

修士課程 物質材料工学専攻 2年
新潟県立長岡工業高校 出身

井上 貴博
Takahiro Inoue

長岡に生まれ、その4分の1をこの長岡技術科学大学で過ごしました。6年前に入学し、修了となった今ではこの大学で得た経験は何ものにも代えがたいものになったことを実感しています。学部時は、テスト勉強、課題レポートを友人たちと束になって取り組んだことは今でも思い出として残っています。学部4年では海外へ実務訓練に行ったと思いきや、いつの間にか課題研究に追われ、毎日まぶしい朝日を眺める日々を送るなど、慌ただしくも充実した学部時代でした。

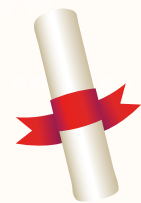
修士に上がってからの研究室では、迫りくるゼミの準備、国際学会に向けた馴れない英語でのアブストやポスターの制作、留学生を交えた英語でのミーティングなど、研究環境の中に国際化も加わり、大変貴重な時間を過ごしたように思います。改めて振り返ってみると、どの経験も今の自分が在るために必要な事だったと実感できます。また、研究以外に学内業務にも精を出し、留学生

のチューターや学生実験のTA、学習サポーターなど、細かく挙げればもっとありますが、本当に色々な経験を本学でさせていただきました。学業や研究とのバランスが取れずに変な時期もありましたが、それでも心からやって良かったと思えます。

修了後は新潟県の高校教諭として働くこととなりますが、本学で学んだことや経験したことは仕事でも活かせることばかりだと思うので、これを武器に頑張っていきたいと思っています。



留学生を交えた研究室メンバーとの集合写真



技大で得られたもの

修士課程 環境社会基盤工学専攻 2年
福島工業高等専門学校 出身

猪狩 貴寛
Takahiro Igari

私は長岡技術科学大学で多くの絆を得ることができました。まず、本学を修了するにあたり、温かくご指導いただいた先生方、支えてくれた家族、切磋琢磨した友人に感謝申し上げます。つい先日編入したばかりと思っていた大学生活も、早いもので修了の時を迎えました。4年前長岡に来た当初、不安と期待が入り混じっていたことを今でも覚えています。思い返すと、大学生活では多くの思い出を作ることができました。

1つ紹介させていただくと、研究室の仲間と過ごした時間です。何度も互いに実験を手伝い、失敗した時の悔しさや成功した時の喜びを共有しました。私が先生に指摘していただいた内容に対して、共に解決策を探してくれたこともありました。先日、研究室の仲間と鍋を囲みました。研究室旅行、ソフトボール大会の思い出

話など、気がつけば日をまたぎ大宴会となっていました。4年かけて得られたこの仲間は私にとってかけがえのない存在です。将来、研究室の仲間と再び思い出に花を添えるのが今から楽しみです。

最後に在学生の皆さん、時間はあっという間に過ぎます。悔いの残さぬよう、遊びや研究、何事にも目一杯取り組んでください。皆さんの学生生活が心躍るものとなりますようお祈りしています。



研究室旅行にて



贈る言葉

トロルのインスピレーションと、、、、

物質材料工学専攻長 教授

梅田 実
Minoru Umeda

童話「やぎのブルーセ」に出てくるトロルは妖怪(オバケ)であり、田舎に隠れ住むいわゆるヌシであるが、太った(力を付けた)大ヤギに対して敢え無く退散してしまいます。ムーミン谷に住むムーミン・トロルは、その名の通りトロル(妖精)です。作者のトーベ・ヤンソンは彼を極めて人間臭く描いていて、周りに登場する妖精たちも全てユニークなキャラクターで、常に悩める主人公を支えていつも読者(視聴者)を飽きさせることがありません。ピーターパンに登場するティンカーベルは、脇役として物語を際立たせる妖精です。そういえば「となりのトトロ」に出てくるトトロもまたトロルです。このように妖精は、洋の東西を問わずにいつも姿かたちを変えて、人々を驚かせたり楽しませたりしてくれます。

ご承知の通り、これらの作品は何れも作家のインスピレーションに基づく創作です。とはいえ、作家にインスピレーションを与

える目に見えない妖精の存在には敬意を示そうではありませんか。

ところで、物語作家は単なるインスピレーションだけで仕事を完結しているでしょうか。答えは否です。彼らは1%のインスピレーションと99%のバースピレーション(汗=努力)により創作活動に携わっています。この名フレーズは、発明家エジソンの創作活動を表すものとしてつとに有名です。つまり著作や発明などの創作は、1%の妖精の仕事と99%の人間の努力がコラボした結果なのです。

本学でそれぞれの論文を完成させて卒業式に臨む皆さんは、あまたの努力のうえに今日の日を迎えたことと思います。この貴重な創作に関する経験を社会で遺憾なく発揮することを願っています。仮に妖精の助けが無くて、皆さんには99%の実力が備わったのですから。



贈る言葉

青春の気概

環境社会基盤工学専攻長 教授

大塚 悟
Satoru Ohtsuka

ご卒業・ご修了おめでとうございます。私の経験をお話しします。学生時代は学生間で共通の問題意識や話題を持ち、共通のゴールに向かう安心感がありました。しかし、大学院への進学や、企業等に就職をすると、次第に自分で意思決定をして独自の道を一人歩むことを認識します。コースは勿論、ゴールも様々で、どちらが良いかの選択は優劣を決めようがありません。このような人生をどう歩めば良いでしょうか。大学に入るまでは良い大学に入ること、会社に就職するまでは良い会社に就職すること、お金を稼ぐこと、分かり易い目標がありました。会社に入った後は出世することでしょうか。素晴らしい成果は賞賛に値しますが、それだけでは少し狭隘な精神でしょう。私はどのような人生も自分で選択し、その選択が安易なものではなく、高い志に裏付けされるものを支持します。想

い通りに行かないことは世の常です。個々の制約条件もあります。ですから、結果よりはプロセスを尊重します。再び私の経験を踏まえると、ゴールがないのは、たとえ同じ路を歩いても、どちらが先かはその時点の事柄であり、気を抜けば次の瞬間に立場の入れ替わることです。すなわち、自らの境遇によらずに生涯前進する気概が肝要です。私の大学時代の恩師は学生に向かって、「生涯青春の気概を持って」と言われました。恩師は当時、現在の私と同じくらいの年齢でしょうか、肉体は衰えつつありますが、「私は青春の中にある」と宣言をされました。青春は必ずしも肉体的なものでない、瑞々しい感性やときめき、チャレンジする精神にあると……。ご卒業・ご修了される皆さんが、「青春の気概」を持って旅たたれることを心より祝福し、応援のエールを送ります。



卒業・修了を祝して

激動の大学生活

修士課程 生物機能工学専攻 2年
長岡工業高等専門学校 出身

篠田 英里
Eri Shinoda

「将来像を具体化させたい」との思いでハタチの私は本学へ編入しました。単位獲得のための猛勉強、家族との永遠の別れ、第1希望で入った研究室からの予期せぬ異動、奨学金探し、怒涛の就職活動、そして長時間の研究活動…たくさんのことに揉まれて、気がつけば4歳年を取っていました。この4年間は、楽しいことよりも大変なことの方が多かったのが正直なところですが、専門性とともに精神力、延いては、「生き抜く力」の向上ができました。また、これらの経験を通して将来像の具体化ができ、理想の将来像を実現している社員がいる企業からの内定も頂けました。もちろん、大変なことだけではありませんでした。全国各地から集う友人やラボメンバーは、とても刺激的でかけがえのないものでした。彼らがいなければ、

今日の私はいなかったでしょう。一息つきたいときに手料理を振る舞ってくれたり、ラーメンを食べに遠出をしたり、寺泊や弥彦などへ行ったりとたくさんのことに私は支えられました。加えて、本庄国際奨学財団様の多大なる経済的支援で学業を継続することができました。最後に、これまでに会った皆さま、たくさんの方面で支えて頂き本当にありがとうございました。4月から社会人として頑張ります。



研究室の皆さんと常連店での記念写真



大学生活を振り返って

修士課程 情報・経営システム工学専攻 2年
新潟県立国際情報高校 出身

佐瀬 大志
Hiroshi Sase

6年間を振り返って実感したことは、色々な人との出会いがかけがえの無いものになったことと、大学での経験が自身の成長に繋がったことです。

学部時代は、レポート課題やテスト勉強など、やるべきことがたくさんありました。しかしその分、大学で出会った仲間と協力し、乗り越えてきたことは、大変良い思い出となりました。また、授業を通じて、様々な経験や知識を得ることができました。

研究室に配属されてからは、研究中心の生活でした。私は興味のあるテーマで研究を進めることができたため、大変だったこともありましたが、日々楽しく研究に取り組むことができました。また、実務訓練では、社会人としての心構えや、より実践的な技術等を学ぶことができました。

このような大学生活を通して、先生方や

研究室のメンバー、友人ともに素晴らしい人達に恵まれたため、大変充実した日々を送ることができました。そして、色々な人の考え方や価値観を知り、自身の世界観が広がったことで、物事に対する見方や考え方が変わりました。今までお世話になった皆様に、心より感謝いたします。春から社会人となりますが、大学で培った経験を活かして、社会に貢献できるよう頑張っていきます。



研究室メンバーとの群馬旅行



贈る言葉

実践で力をつける

生物機能工学専攻長 教授

城所 俊一
Shun-ichi Kidokoro

卒業・修了おめでとうございます。この4月から社会に出る皆さんの健康とご活躍を心からお祈りします。

社会に出てからは、日々の実践の中で皆さんは力をつけてゆくことになります。僥越ですが、一つの例として私の経験を述べさせていただきます。私は毎年、学部3年生で「蛋白質工学」の講義を担当していますが、講義するほとんど内容は、私が大学や大学院で学んだものではありません。分子機能に関する知識や技術、分子設計についての方法等は全て社会に出てから、日々の研究の中で身に付けてきたものです。もちろん、大学や大学院で学んだことが実践を支えてくれていたことは間違いありませんが、過去に学んだ知識や技術だけで、これからの社会で活躍し続けることはまず無いと思ってください。

科学や技術は日進月歩です。例えば、私が大学でコンピュータを学んだときには、インターネットは影も形もありませんでした。たぶん今後も、現時点では想像もできないような技術があつという間に当たり前になることが様々な場面で起きることでしょう。そのような時も、皆さんは、大学・大学院で学んだことを基盤にして、日々の実践の中で新しい技術・知識・考え方を積極的に取り入れ、皆さんの実力としていってください。

どんな世の中になっても、恐れず、常に前向きに進んでゆくことを、共にめざしましょう。近い将来、より遅くなった皆さんと、どこかでお逢いするのを楽しみにしています。どうぞお元気で活躍ください。

贈る言葉

組織のプレッシャーと社会倫理

情報・経営システム工学専攻長 教授

山田 耕一
Koichi Yamada

経営情報システム工学課程の卒業生と情報・経営システム工学専攻修了生の皆さん、おめでとうございます。学部卒業生の皆さんは、「経営情報システム工学課程」として最後の卒業生になります。

さて、新聞(2017/9/17朝日新聞「日曜に想う」)によると、2000年から2017年まで大阪商業大学JGSS研究センターが定期的に行った全国調査に、社会に影響を持つ15の組織等について信頼感を問うアンケートがあります。選択肢は「とても信頼している」、「少しは信頼している」、「ほとんど信頼していない」、「わからない」の4つで、肯定的な2つを選んだ人の割合を見ると、安定して高いのは病院(90%前後)と新聞(80%台)、次いで学校、テレビ、裁判所、自衛隊、警察、金融機関が70%台で続きます。しかし、学者・研究者はやや低くて約70%。大企業が約60%、中央

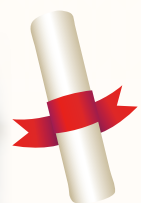
官庁と労組は40%から50%、国会議員は30%程度だそうです。

皆さんはどう思うでしょうか。私は、一部意外と思うものもありましたが、だいたいは「こんなものか」です。学者・研究者が低いのは、福島原発事故、スタップ細胞、ディオバン事件などの事故・事件・不正が影響しているでしょう。大企業がさらに低いのは、様々な不正・不実がしばしば報道されることから想像がつきます。

社会にできれば様々な矛盾があり、組織の論理はしばしば社会常識や社会倫理と異なります。でも、「企業の目的は何?」と聞かれて、「利益を最大化すること」と答える企業人もだいたい減ったそうです。技術者倫理を学んだ皆さんは、自分の価値基準を信じ、プレッシャーに負けることなくがんばってください。



卒業・修了を祝して



2年間を振り返って

修士課程 原子力システム安全工学専攻 2年
千葉工業大学 出身

土田 雄大
Kazuhiro Tsuchida

本学を修了するにあたり、ご指導頂きました先生方、共に学び高め合ってきた同期の仲間達、そして絶えず応援し支えてくれた家族に感謝の意を表します。皆様のおかげで充実した学生生活を送ることができました。

他大学を卒業後、本学大学院での2年間は足早に過ぎ去りました。本専攻に入学して初めて触れる原子力に関する講義、研究活動や就職活動など辛いことも多々ありましたが、先生方や同期の仲間達の助けもあり、無事に乗り越えることが出来ました。また、2年間の学生生活を振り返ると、多くの人との出会いが印象に残りました。

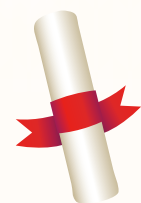
本専攻は留学生が多く在籍していることに加え、多様な価値観を持つ学生が集まっていたと思います。言語や考え方の違いに臆して上手くコミュニケーションを取れないこともありましたが、多様性を認めることで自分に不足しているものを自覚し、これまでの狭い視野を広げる良い機会になりました。

また、学内のみならず実習等を通して学外の人々とも出会い、交友関係を築くことが出来ました。特に、就活とは無関係の実習で出会った友人が同じ就職先に内定していたときには、驚嘆するとともに奇縁を感じました。

本学での経験は貴重な財産になりました。これから新社会人として歩んでいく上で、学生生活で培った知識、経験に加え、一期一会の精神を大切にし、日々努力していきたいと思っています。



学会発表後の打ち上げ



長岡技術科学大学 システム安全専攻終了にあたって

専門職学位課程 システム安全専攻 2年

藤井 良久
Yoshihisa Fujii

2016年4月に長岡技術科学大学システム安全専攻に入学して早くも2年が過ぎ去り、本年(2108年)3月26日には修了式に臨むことができる見込みになりました。私は、2016年4月から現所属の日本安全システム株式会社に転職し、安全の中でも、かなり特殊な防爆という分野で、いろんな企業の防爆、安全を担当しておられる技術、開発関係の方々とお話をする機会が増えそうことから、長岡技術科学大学システム安全専攻に入学するにあたり、次のような目標を掲げました。
・各社安全技術の方とお話ができるよう、法令、規格、安全のための技術、安全のためのマネジメントすべての分野の知識を広げたい。そのために、システム安全専攻の講義は受講できるものはすべて受講する。

・そのためには、東京、長岡に拘わらず、日程の合う限り、全講義に履修登録を行い、課題もあきらめずに全てやりきる。
その結果、大量の課題に途中挫折しそうなことが何度もありましたが、無事に全科目制覇を行うことができました。これも、ひとえに講義を担当された先生方の熱意に惹かれた結果だと思っています。これからシステム安全専攻で学ぼうと考えておられる人も、是非すべての科目の制覇をめざして下さい。大変ですが、それだけの達成感と成果を得られることは間違いないと思います。
プラスアルファで長岡の美味しいお酒と料理にも是非挑戦を!!



プロジェクト研究報告会后 1回以上年の離れた学友兼飲み友達と(大きい方が私です)

贈る言葉

ご卒業おめでとう

原子力システム安全工学専攻長 教授

江 偉華
WEIHUA JIANG

原子力システム安全工学専攻修了生の皆さん、おめでとうございます。長い在学期間を支えて来られたご家族にも心からお祝いを申し上げます。

今日は記念すべき日です。いままで全ての努力は今日のためでした。いま手にした学位記はこれまで日々蓄積した結果でしょう。皆さんは今日大きな一歩を邁進しました。しかし、皆さんがプロの技術者への修業はこれからまだまだ続くことを忘れてください。中国で昔から伝えられてきた“学無止境”という言葉のように、学問は止まるところがありません。

学校で身につけた知識と研究室で磨いた能力は、皆さんにとって大事な財産です。一方、先日テレビで見た

オリンピックのように、勝つためには自分だけのわざが必要です。皆さん、これからそのわざ(技、業)を仕上げてください。

本専攻は、設立から6年間が経ち、成長過程の中で皆さんの貢献が記録されています。今後も、皆さんそれぞれの活躍は本専攻の発展につながります。どこで勤めていても、専攻からの厚い期待を忘れてないてください。



贈る言葉

安全に卒業なし

システム安全専攻長 教授

門脇 敏
Satoshi Kadowaki

技術経営研究科システム安全専攻を修了される皆様、そしてご家族はじめ関係の皆様に、心からお祝い申し上げます。社会人としての仕事と本専攻学生としての学業を見事に両立された皆様のお姿に深く敬意を表します。

本専攻は平成18年度に設置され、数多くの社会人学生を受け入れ、システム安全を体系的に教授してきました。そして、本専攻で学業に励まれた修了生は、現在も安全のエキスパートとして幅広く活躍されています。今春修了される皆様にも、本専攻のOBやOGに続いて社会で活躍されることを期待します。

初年度に入学された一学期が修了の際に残した言葉が「安全に卒業なし」でした。記念品としていただいたUSBメモリーには「安全に卒業なし」の文言が刻まれています。今でもそれを授業や研究

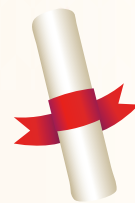
で使いながら、一学期生の想いを心の中に抱え、システム安全に取り組んでいます。本専攻での修了は一つの区切りにはなりますが、これで終了ではありません。今後も長い年月に亘り安全を学び続け、切磋琢磨することになります。ここに、一学期生が残した「安全に卒業なし」を、今春修了される皆様にお贈りしたいと思います。

不確定要素が多く先が読み難い昨今の状況において、安全安心社会を構築するには、システム安全の考え方が不可欠となっています。そのためには、本専攻を修了される皆様の力をお借りする必要があります。安全のエキスパートである皆様と共に手を携えて、安全安心社会を構築していきたいと思っています。

皆様にはシステム安全の伝道師として、「安全に卒業なし」を胸に抱いて、益々活躍されることを祈念いたしております。



卒業・修了を祝して



長岡技大での5年間

博士後期課程 エネルギー・環境工学専攻 3年
秋田工業高等専門学校 出身

阿部 晃大
Kodai Abe

私は高専の専攻科からの編入であったため、長岡に来てからの年数は今年で5年です。高専の本科と同じ年数を過ごしましたが、長岡で過ごした時間は全くの別物でした。高専では何かしてゲームをする時間を作っていた私が、今ではモンスターハンターの新作も買わないほどです。もちろん、これは研究生生活が忙しいからではありません。ゲーム以外に打ち込めるものができたからです。

編入して研究生生活が始まった頃は、先輩や先生の話が全くわからず苦労するとともに、研究の話で笑いが起きたりすると「そこ笑うところ?!」と驚いていました。不思議なことに、そんな生活が続くといつの間にか研究の話が理解できるようになり、笑いどころもわかるようになってくるのです。人間、環境に慣れるものなの

だと感じます。こういった自分の能力のレベルアップを実感できると、ゲームとは違った達成感が得られました。

理解を深めた場合にしか得られない楽しさや気付きというのは、研究に限らず万事に共通するかと思います。勉学でこういった経験ができたことは、偏にこれまでご指導頂いた先生方のおかげと心より感謝しております。まだまだ未熟者ですが、これからも成長できるよう日々精進して参りたいと思います。



研究室旅行



贈る言葉

「集中」するための「工夫」

基盤共通教育部長 教授

北谷 英嗣
Hidetsugu Kitatani

卒業・修了おめでとうございます。皆さんを日々支えてこられたご家族の方にも心からお祝いを申し上げます。皆さんは、今まさに未知の世界に踏み出すことに心躍り、自分自身にも様々な可能性を感じていることと思います。

私自身、過去を振り返ってみると、ある一つの時期には結局は一つのことしか集中できなかった気もするし、そのためにもう少しいろいろな工夫をすべきだったという感じがしています。皆さんは今後社会人として責任をもってなさねばならないことも学生時代と比べると格段に多くなります。その中で、何を大切なことと考え、そのことに集中するためにどのような工夫をしていくか、当たり前かもしれませんが、

それは一人一人にとって違ったものになると思います。

今年は積雪も比較的多く大学に来るだけでも結構大変な思いをした方も多いでしょう。その中で頑張って論文や課題研究等を完成させるには、各人がそれぞれ様々な工夫をしてきたことでしょう。

今後、本学で学び身に着けた力を発揮しつつ、どのような工夫をしてなすべきことに集中していくか、皆さんの今後の活躍を楽しみにしています。頑張ってください。

贈る言葉

卒業おめでとうございます

卒業・修了される皆さん、おめでとうございます。同窓会を代表して心からお祝いを申し上げます。そして同時に、長岡技術科学大学同窓会の正会員になられました。新しく、頼もしい仲間を迎えて同窓会の世界が大きく広がり、嬉しい限りです。

今冬は、冬季オリンピック・パラリンピックが開催されました。真剣勝負に拍手を送り、日本の選手の活躍に目を奪われました。そして、技大には27の国と地域から300人以上の留学生在学中なので、技大生の「母国」は27、日本を加えて28です。28もの「母国」を一緒に応援できる、世界中に家族がいる、大変恵まれた大学を卒業し、現在も関わっていただけることに感謝しています。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催も、同じようにたくさんの「母国」を応援できることが楽しみです。また、現在、様々な形で「火焰型土器を聖

火台に」という働きかけが行われています。私たちもその運動に共感し、今年度の同窓会主催マラソン大会の参加賞のポストカードにも、早津剛先生の描いた火焰土器のポスターを使用させていただきました。

火焰型土器の形状は有名で、誰もが知っていると思います。しかし、信濃川支流魚野川流域で多く出土していることはあまり知られていないのではないのでしょうか。また、関連の文化財群が「日本遺産」に認定されています。関原の「馬高縄文館」で学ぶこともできます。

聖火台として採用されたら、近くで触れ、感じていた者として非常に誇れることとなります。是非、皆さんもこの活動に興味を持ち、機会を捉えて発信してほしいと思っています。

新潟の地で触れた様々なことを忘れず、これからも充実した生活を送っていただくよう、心より願っています。



同窓会 会長

磯部 広信
Hironobu Isobe

地の塩となるように

留学生との交流・支援を始めてからむつみ会は今年で30周年を迎えます。

今年も春・秋に新入生に合わせて開くバザーに続き新緑の季節に茶道と着物着付けの体験、9月には日本語のスピーチコンテストを開催する予定です。

1988年に立ち上げたこのコンテストは当時苦学生の支援をしたいと願い開始したと聞いています。賞金は長岡市長賞をはじめ今年は参加賞を含め増加する予定です。

昨年度からは長岡・若者・しごと機構の支援をいただきました。当日の司会は高等学校の生徒が担当しアトラクションは技大生の軽音楽の演奏

で盛り上げられ若者たちと留学生との交流も楽しめたのではとの感想が寄せられました。

我が家で招待した留学生は長岡の企業へ就職し家族と共に地元生活。奥さんは出産しRちゃんは保育園に通い長岡大好きと言います。ママの日本語通訳もでき、ひな祭りの歌を3番まで見事に歌い孫たちと共に楽しみました。

卒業・修了する皆様にお祝いのご挨拶にはむつみ会の活動も「あなたがたは地の塩である。」ように願いつつ心がけてまいります。



むつみ会 会長

樋口 里子
Satoko Higuchi

長岡地区保護司・
薬物乱用防止指導員
日本・インドネシア経済協力
事業協会地域指導員

全国高専めぐり

シリーズ

第三十五回 近畿大学工業高等専門学校

地域志向のグローバル技術者の育成を目指して

近畿大学工業高等専門学校 校長 村田 圭治
Keiji Murata



本校は、昭和37年、近畿大学初代総長・理事長である世耕弘一先生により、「熊野高等専門学校」として三重県熊野市に創立されました。平成11年12月「近畿大学工業高等専門学校」に改名。平成17年度より1学科「総合システム工学科」・複数コース制に改組し、1、2年次で共通科目を十分に履修した後3年進級時に専門コースを選択できるようにしたことで、より時流に対応しやすい組織となりました。現在の専門コースは、機械システム、電気電子、制御情報、都市環境(土木・建築)の4コースで、入学定員は160名です。また平成17年度に、専攻科「生産システム工学専攻」を開設しています。

本校の特徴は、「個性を尊重したきめ細かい教育」です。その一例として、数学や英語では学習到達目標の異なる習熟度別クラス授業を実施、定期試験毎に追試を行って留年を極力抑えるなどの

工夫が挙げられます。一方、勉学意欲に燃える学生には特別教育プログラムを用意し、更に上を目指せる学習環境を提供しています。本科卒業後に進学する学生は30%未満ですが、長岡技科大学・豊橋技科大学への編入生が最も多くなっています。

その他、市民公開講座の開催、自治体の各種委員会への教員派遣、技術相談や共同研究の実施など、地域との連携強化を進めています。

今後とも近畿大学学園の建学の精神である「実学教育」と「人格の陶冶」を継承し、「人に愛され、信頼され、尊敬される新時代を担う技術者を育成すること」を目指して参ります。

近畿大学高専URL：
<http://www.ktc.ac.jp/>



市民公開講座の様子



本館(左)と 図書館(右)

近畿大学高専 から 長岡技大へ



環境社会基盤工学専攻 修士1年

松澤 和憲 Kazunori Matuzawa

近畿大学工業高等専門学校総合システム工学科
平成27年3月卒業

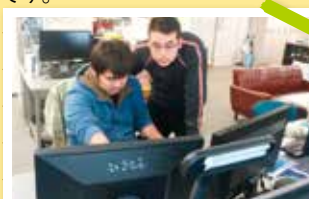
新発見の出来る編入

私は、一般的な高専生とは、学歴が異なり高校3年生を卒業し、高専の4年次に編入を行いました。初めは、大学受験に失敗し、それでも大学は卒業したいという思いで高専に編入しました。しかし、高専で専門科目を学習していく中で、自分が知識不足であることに気づき、努力して、何とか技大に編入することは出来ました。

編入後は、学力だけでなく、これからはコミュニケーション能力も必要であると、大学生活で学ぶことが出来ました。私が在籍している鋼構造研究室の約半数が留学生であり、言語の違う留学生とコミュニケーションを取りながら、

日々研究を行っています。

来年から、M2になり本格的な研究が始まっていきますが、そこから新しい課題も見えてくると思うので、それらを取り切り自分の知識の幅を広げていきたいです。



打合せ風景

退職にあたって

在学期限切れ

情報・経営システム工学専攻 教授
体育・保健センター長

Hitoshi Miyake 三宅 仁



本学園開学間もない頃から37年間勤務し、無事に卒業できることになりました。否、37年も掛かったのだから到底無事とは言えません。この間自分ではそれなりに努力してきたつもりですが、少年老い易く学成り難し。

教育としてはいわゆる教養科目の「ライフサイエンス」および「人間と環境」をずっとやってこられたのは生涯の宝となりました。実はまだ分からないところや新しい知見が出て、前年教えた内容の変更がたびたびあり、毎年ヒヤヒヤでありました。教職科目では「教育・青年心理学」などで楽しませてもらいました。大学院は専門の「医用工学」から「医用福祉工学」と名前を変えたところに時代の変遷があります。当初は専門系に属していなかったで、機械、電気、材開、生物などさまざまな専門の学生を受け入れ、多彩な教育・研究ができました。博士学生

ははずかでしたが、学士、修士ともどもユニークな進路で皆頑張っています。

研究面では当初の人工臓器関連での人工筋肉開発あるいは昆虫の飛翔メカニズム解明が記憶に残ります。近年は健康・福祉関連として触覚の研究や「心理学」によるストレスマネジメントシステムの開発を手がけましたが、一部未完であるのが少々心残りです。

健康管理ではいくつか記憶に残るエピソードもありますが、概ね問題なく過ごせました。また、近年のメンタルヘルス対応ではずいぶん勉強させられました。

正直、単位不足のまま在学期限切れとなり、退学となる所です。今後は障がい者スポーツドクター、日本体育協会スポーツドクターなどの資格を活かした社会・地域貢献を考えています。残る皆様のますますのご発展をお祈り申し上げます。

ありがとうございました

システム安全専攻 教授

Yuji Hirao 平尾 裕司

本学の専門職大学院システム安全専攻の教員として着任してから早いもので11年が過ぎました。辞令交付式日の早朝まで東京の前勤務先で後片付けに追われ、その後新幹線に乗り、辞令交付に間に合い安堵したことが昨日のように思い出されます。

専門職大学院での教育研究は、私にとって充実しておりました。学生は全員社会人で、体系的に安全を学びたいという高い志を抱いて入学しており、特定の分野については教員よりも深い知識・経験を有していて鋭い質問をします。安全は厳しい側面を有していて、会社等で安全を担当する学生と議論することには醍醐味もありました。同時に、システム安全専攻では、管理・経営を含め産業分野の代表的な安全領域である機械安全を中心に授業を構成していますが、体系的に安全を学びたいと

いうことに対して私の専門分野(列車制御システムの安全)からも適切に応えられなければならないというプレッシャーがありました。宇宙、航空、自動車などの分野における最先端の安全技術・管理がどのような状況にあるのか、それらは鉄道の安全とどのような関係にあるのか、また、それぞれの学生の専門分野の安全に対してどのような見解を述べるができるか、自問してきました。学生には異なる視点から授業ができたかと思ひますし、私自身も学ぶことが多かった11年間でした。

安全に関する教育は、技術が社会の中で有効に機能するために重要なものであり、本学でこのような教育が行われていることに大きな意義があると思います。多くの方々に大変お世話になりました。本学の益々の発展を祈念して退職のご挨拶とさせていただきます。



退職にあたって

長岡にて定年を迎えること

原子力システム安全工学専攻 教授

Masahide Suzuki 鈴木 雅秀



ここで定年に際する文章を書いていること自体、実に不思議な巡り合わせだと感じています。私が社会人となって茨城県の原子力の研究機関に就職したのは1978年のことですので、今年で丁度40年になります。長岡の地が私にとって特別なものとなるとは、当時は勿論のこと、10年前ですら考えもつかなかったことでした。振り返ってみると、10年前は福井県の敦賀市に、20年前は東海村に、30年前は米国のオークリッジに居ました。共通するのはみな原子力ゆかりの地です。一方で、長岡に初めて訪れたのは、20数年まえになりますが、当時学会の研究グループで柏崎市と刈羽村に建設中の原子力プラント見学のために、皆で長岡に立ち寄ったもので、やはり原子力繋がりでした。真冬にもかかわらず想像していた長岡とは全く違って雪がなく、拍子抜けしたことを思い出

します。そして、年月が過ぎ長岡技科大学に原子力システム安全工学専攻ができた結果、原子力の研究教育に携われるという掛け替えのない場を、5年という短い期間でしたが得ることができました。福島第一原発事故の後だけに来る前は大変心配していましたが、何より学生が前向きだったことで寧ろ大いに励まされたことを覚えています。また、高専の学生や留学生との関わりも増えました。それまではどちらかというと、いわゆる専門家の中だけで議論することが多く、それがともすれば視野を狭くしている面もあったように思います。学生や長岡の様々な方々を通じて地域の生の声に学ぶ重要性など、ここ数年で真に理解できたことも実に多かったと思っています。定年にあたっては、全て感謝の気持ちで一杯です。最後に、今後とも長岡技科大学の発展を祈っています。

出会いと再会

基盤共通教育部 准教授

Seizo Ishioka 石岡 精三



1981年に和歌山工業高等専門学校に赴任し、1988年に長岡技術科学大学語学センターに転任いたしました。

37年の教育・研究生生活を送ったことになりました。この間は多くの出会いと別れであったと思っています。この年月の原点はすべて私が入学した八戸工業高等専門学校にあったと考えています。

高専1、2年次でのドイツ語学習がスペイン語とフランス語の独学につながり、これら言語は現在まで言語学研究の対象の一部となっています。ドイツ語を教授下された先生は、2年次の学級担任であった佐藤道生先生でした。

数年後言語学研究のために入学し国立大学でドイツ語を教授願ったのがこの佐藤先生でした。先生が岩手大

学に転任なさるまで、お世話をいただきました。

本学に転任した際にも再会がありました。それは、本学の材料開発系にいらした斎藤勝先生との再会です。斎藤先生は、八戸工業高等専門学校の4年次の学級担任でした。

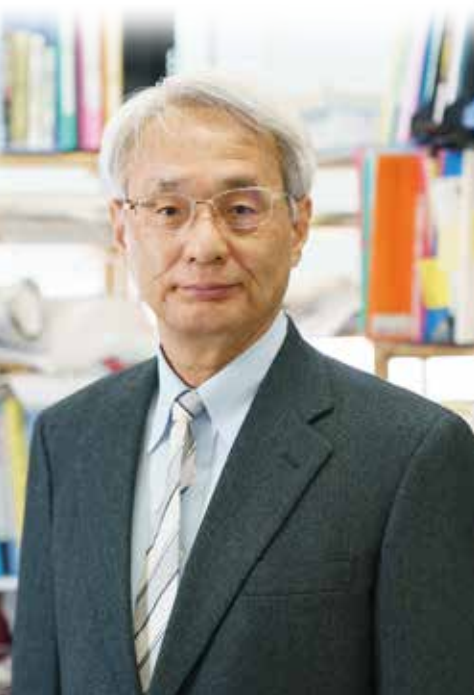
このように、私のこれまでの教育・研究生生活の源流は佐藤先生と斎藤先生との出会いと再会にあると考えています。

種々の言語を理論言語学の観点から研究する環境をご提供下さった皆様に再会することを祈念して、退職の挨拶とさせていただきます。

地球が許してくれるものづくり

原子力システム安全工学専攻 教授

Kazuhiko Suzuki 鈴木 一彦



筆者は大学で指導いただいた佐藤常三先生に数学を通して本質を考えることの重要性を叩き込まれました。日本原子力研究所に就職してからは研究用高温ガス炉の設計と許認可、引き続き高温核熱を使っ

た水素製造システムのあるべき姿の検討を行いました。核融合システムITERの構造規格を検討するように請われましたが、赴任してみると、そもそも安全確保の考え方が不適切なことがわかり、安全確保の考え方から耐震設計まで本質に遡って作り直しました。その後、破壊の研究を行っているときに本学にお世話になった次第です。本質を考えることの重要性を痛感してきました。

筆者はものづくりの現場に身を置き、人生の後半で本質を考えることとして悩んできたのがタイトルのことでした。ものづくりにおいて、技術的に頑張ればプラントの健全性を確保できるようになるでしょう(can)。もっとも、想定外の事故、特にunknown

なことによってもたらされてしまう、重大な影響を引き起こしてしまう事故をどう考えるか難しいですが、しかしながら、それだけでは健全性を確保しているであろう(will)にはならない。Willにするためには、昨今の不祥事の反省として、極言すれば人間の「だます」という本能に対してどう対処するか考えなければいけないわけです。「だます」ということは、動物でも行う本能であります。

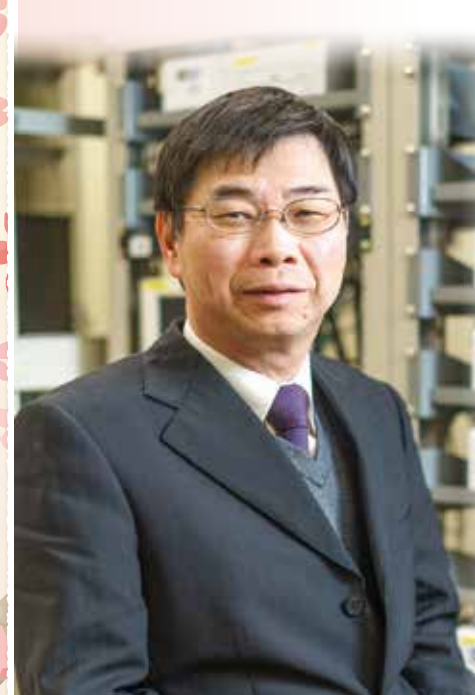
現在、技術要求に加えて品質保証活動、認証・認定によって規制としてのwillを目指しています。規制はsound scienceですからこれらを頑張っているわけです。福島第一の事故は、現状を超えてどこまでもものづくりとして考えるべきか地球からの宿題のような気がします。できないと言ってあきらめてよいのか。

本学に赴任して5年で満足な成果を挙げられず申し訳ない限りですが、武藤先生はじめ皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

FreeBSDとRuby

電気電子情報工学専攻 情報処理センター 助教

Masatoshi Yachida 谷内田 昌寿



1981年4月に長岡技術科学大学に赴任してから、早いもので37年が経過しました。

最初は電気系技官として、電波・光波大講座に所属しておりましたが、所属教員等の影響でパソコンやネットワークに興味が向くようになりました。

その後OSとしてFreeBSDを知り、各種のサーバを構築できるようになった時に、情報処理センターから誘いを受け、そちらに移動しました。当時は、ファイアーウォール(FW)もなく、各種サーバは当時の商用UNIXであり、値段が高く、処理速度が低く、セキュリティが低いものばかりでしたので、ほとんどのサーバをFreeBSDで構築し直し、処理性能改善とセキュリティアップを達成しました。しかしながら、FW導入で学外回線の処理速度が追い付かず、急所Proxyサーバを導入しました。それでも処

理速度が足りず、結局FreeBSDの導入で対策しています。

センター赴任から3年後に、システムプログラムを主に行っていた中野先生が学外に転職することになり、急所システムプログラム(LAN登録やアカウント登録等)も手掛けることになりました。その時にrubyと言う新たな言語を使うようになり、各種システムプログラムの作成に大いに活用してきました。

ネットワークに問題は尽きず、ウイルスメールや迷惑メールの氾濫等セキュリティ対策や、新たな認証の構築も急がれており、これからの運用も益々大変になると思いますが、大学のネットワーク環境の今後の発展をお祈りしております。

長年に渡りお世話になりました皆様に感謝しております。

ありがとうございました。

退職にあたって

定年を迎えこれからも

技術支援センター 主任副技術長

宮 正光

Masamitsu Miya

私が本学に採用となったのは1979年、2期生が入学した年でした。あれから39年、私は一貫して化学系(現物質材料工学専攻)の教育・研究支援を担当してきました。振り返れば、大学の果たす役割に社会貢献が加わったことで私の仕事も大きな広がりをみせました。学生実験の指導に加えて、小中学生向けの科学教育啓発活動を始めとし、高校生講座、小中教員研修、高校理科教員研修、短期留学生受入プログラム、海外出前実験な

どに関わるようになりました。また、技術職員の組織化「より全学的な支援」を契機に、分析計測センターの2機器分析装置を担当しました。他にも様々な変化がありましたが、ありがたいことに「先生方をはじめ、事務職員・技術職員の皆様、学生の皆さん」に恵まれ、楽しく仕事を行うことが出来ました。ありがとうございました。4月からは再雇用職員としてお世話になりますので、引き続きよろしくお願いたします。



振り返り、そして言葉では 言い尽くせない感謝を込めて

学術情報課長

関 美津子

Mitsuko Seki

42年前、引っ込み思案で田舎育ちの私は国民の奉仕者となる旨の宣誓をし、東京の真ん中で同期の仲間と1か月の研修を受け公務員生活を開始しました。不安だらけの私に仕事の基礎の基礎や、退庁後の都会生活の楽しさを教えてくれたのは配属先で出会った先輩や上司でした。同僚と笑い泣き悩んだことがついでこの間のようです。

短くも充実した都会生活に別れを告げ1期生入学の年に本学勤務を決断しました。当時は学生や教員との距離が近く、りんご狩りやソフトボール、テニス旅行等をしたことが懐かしく思い出されます。大学の業務と前職業務とのギャップに驚き早40年、私は同学年の1期生と共に定年を迎えます。

印象に残っている事は、法人化直前に受けた研修でのディベートです。1つの論題に対して、肯定側、否定側、判定者の3役を順番にこなして議論しました。普段使わない頭を使い過

ぎて気分が悪くなり「脳に汗をかく」ということを実感しました。そこで得たものは、知識・情報・経験の大切さと異なる意見も理解し議論を深め自分の考えを組み立て話すことでしたが、これが業務に反映されたかという反省しかありません。また、その際の講義での「一芸」と「ゼネラリスト」の両面を併せ持つように、変化に敏感に、逆境をバネに、等の言葉は、頭では解っていても実践は困難でした。今後は、これら反省を糧に年齢に逆らわず残された貴重な時を過ごしていきます。

定年に迫り着くまで一体どのくらいたくさんの人に助けられたのでしょうか。唯一自慢の丈夫な心身を与えてくれた両親、安らぎを与えてくれた家族・友人・・・そして、そして、何よりも、こんな私と一緒に仕事をさせていただいた先生方、事務職員の皆様、本当にありがとうございました。



「石の上にも三年」と

基金・卒業生室長

中島 鉄行

Tetsuyuki Nakajima

1980年採用から38年経ちました。採用時もこの冬と同様に豪雪でした。低層棟と駐輪場の雪下ろしは恒例でした。和文と英文のタイプライターが主流でした。汎用コンピューターが空調のきいた特別室を占有していました。高速道路も新幹線もありませんでした。いろいろなのが加速度的に変化しました。私の大学入試時には姿のなかった本学が、今やスーパーグローバル大学として日本のグローバル

化を牽引する大学に成長しようとは思ってもいなかったことです。その成長スピードに私がついて行けていたのかは甚だ怪しいものですが、先生方をはじめ、上司・先輩、同僚のご指導・ご協力のおかげをもちまして、無事に定年を迎え退職いたします。ありがとうございました。皆様のご活躍と本学の益々の発展を心からお祈りいたします。



編集後記

今年の長岡は数年ぶりの大雪で、学生時代で最も雪の多い、大変な年になったのではないかと思います。山のような雪に囲まれて駐車場に車を駐車するのに30分かかかるような生活を送っていると、雪が解けているんなことが徐々に出来るに連れて、何かから解放されたような感覚を持つ方もいらっしゃると思います。雪解け、そして卒業・修了という二つの「解放」が重なるこの時期、貯めていたエネルギーを今こそ全開にして、春から大いに活躍ください。卒業・修了おめでとうございます。(山本和英)

VOSの由来 本学のモットーである、Vitality, Originality, Servicesの頭文字をとって、本学初代学長の故川上正光氏により名付けられました。



VOS NO.204 [平成30年3月号]
編集発行 長岡技術科学大学広報委員会

◎本誌に対するご意見等は下記までお寄せ下さい。

〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1

TEL. 0258-47-9209 FAX. 0258-47-9010 (大学戦略課)

E-mail : skoho@jcom.nagaokaut.ac.jp URL : http://www.nagaokaut.ac.jp/

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。